

点描

パリ見本市に出展

東京産の家具が欧州に向かつて羽ばたこうとしている。東京都家具工業組合（東家工、東京都文京区）などは家具ブランド「tobi（都美）」を、フランス・パリで開催されたインテリアとデザイン関連の見本市「メゾン・エ・オブジェ2001」に出展した。国のJAPANブランド育成支援事業の一つとして、東京商工会議所と2008年から取り組む「リビング・デザイン東京」プロジェクトで製作した。都美は都内の特注家具メーカーと、デザイナーの岩倉榮利氏らによるブランド。デザインのコンセプトは粋で鱻やかな江戸っ子気質。江戸切子や伝統的な組み手などを採用している。国内の見本市

東京産の家具、海外へ

販路・販社の確立カギ

や展示会で高い評価を得たことから、世界のバイヤーが注目する見本市への出展を決めた。

職人が軒連ねる

東京には家具の量産メーカーがなく、産地として認識を持たれていないが、大消費地に立地し、明治初期から洋家具製作の歴史・技術がある。港区の芝地域、現在のJR新橋駅付近には当時、多くの家具職人が軒を連ねた。同地で作られる高級洋家具は「芝家具」と呼ばれ、官公庁やオフィス街に納められた。

その後、家具も量産の時代を迎えると、各工程の職人による分業制の芝家具は衰退。多くの職人が地方に移転した。長引く日本経済の低迷や格安家具メーカーの台頭が、彼らの苦境に拍車をかけている。

トンネルの先は

都内各地の家具メーカーにより、69年に結成された東家工も、かつては160社が加盟していたが、現在は約70社。理事長を務める山口木材工業（東京都北区）の山口千絵子社長は、この数年だけでも家具メーカーが倒産するのを何回か見てきた。「暗いトンネルの先は、どこにあるんだろうという感じ」と打ち明ける。それだけに、プロジェクトにかける期待は大きい。

これまでテーブル、チェスト、コートハンガーなどが売れるといった成果も表れている。海外だけでなく国内にも買いたい人はいる。そこにいかに情報を届けるか、プロジェクトの最終年度となる11年度に向け、販路や販社の確立が課題となりそうだ。（森崎まき）



デザインには江戸切子や伝統的な組み手などを採用（「tobi」のイメージ）